

「プラチナデータにおける人物の神楽りゅうへいの解離性同一性障害」

序論

心理学の中で、一般の心理学と臨時の心理学がある。一般の心理学は、賢明で文明された人間の行動を学ぶ。同時に臨時の心理学は、特定の状況で人間の行動を学ぶ。臨時の心理学の中で、異常心理学ということがある。カルティニカルトノ(2000:25)によると、異常心理学はすべての精神障害、また精神異常を調査する心理学の分野である。人間の性格に影響を与える精神障害の一つの形態は、解離性同一性障害あるいは二重人格でよく知られている。

Akagi Kohgen Hospital のウェブでは、竹村道夫によると、解離性同一性障害の概念はこのような記述される：

Dissociative identity disorder (DID) というのは、ひとりの人に、明瞭に区別される二つ以上の同一性、または人格状態が存在する病態です。それぞれの人格状態は、同一性、記憶および意識の統合の失敗を反映しています。

という映画の話に基づく。神楽りゅうへいという人物が経験した二重人格の現象を分析する。神楽りゅうへいは、リュウという一人の人格と、カグラというほかの人格を持つ。

本論

解離性同一性障害を持つ人に、最も一般的な症状は交代人格(*Alter*)を有する。*Alter* は特定の時間に出現し、コア人格(*core*)から意識を取ってしまう。映画の場面で神楽りゅうへいの様子を話し合うキャラクターの会話によると、カグラは生まれ持った人格であり、リュウはただの交代人格である。それだけではなく、映画の場面によると、神楽りゅうへいは体の機能変化を経験することまでなる。カグラは近視だが、リュウにはその異常がない。コア人格と交代人格の意識の入れ代わりが続いているため、お互いの人格の記憶も持続的ではない。一つの人格がほかの人格に別の経験を感じるの記号である。

解離性同一性障害を持つ人には、*Alter* あるいは交代人格を出現することは昔経験したトラウマと関係がある。最も引き金になるのは、身体的外傷や性的外傷を経験して、恐ろしい事件を見かけるなどである。例えば、家族の死を見る。十五歳の神楽りゅうへいは首をくくって自殺した父親を見てしまった。この事件が起きることで、神楽りゅうへいの中に交代人格が生まれるようになった。交代人格が人に出現した後、結果はどうかをはっきり伝えられない。だが、プラチナデータの映画には主人公は重複 *overlapping* という現象を起こした。リュウというコア人格はカグラという交代人格に風靡

されるとき、交代人格のカグラに「生まれ持った人格はぼくだ」と言われ、コア人格が少しずつ自分自身に対する意識のコントロールが失ってしまった。

結論

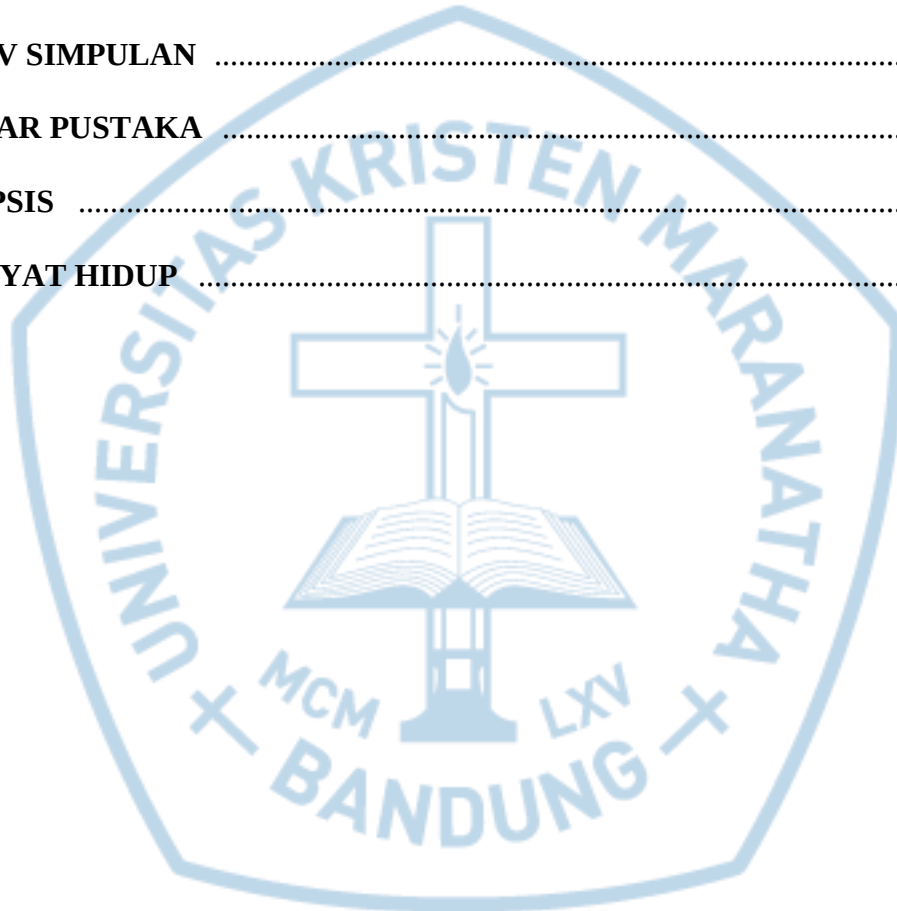
神楽りゅうへいに解離性同一性障害の症状は交代人格が出現するときに始めた。人に *Alter* が生まれるのは普段ある現象を経験した後からである。例えば、十五歳の神楽りゅうへいは自殺した父親を見てしまい、トラウマになった。未熟な年で、神楽りゅうへいは精神的に大きなショックを受けた。彼がトラウマから逃げようとするときに、自分よりもっと強いキャラクターを望んだ。これが交代人格を生み出したきっかけとなった。

しかし、交代人格は神楽りゅうへいに生まれてから、コア人格の意識がよく支配された。結局コア人格のリュウは交代人格のカグラに風靡され、神楽りゅうへいは二重人格を持つようになってしまった。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PENYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vii
DAFTAR GAMBAR	ix
BAB 1 PENDAHULUAN	1
1.1. Latar Belakang	1
1.2. Rumusan Masalah	5
1.3. Tujuan Penelitian	5
1.4. Metode dan Pendekatan	6
1.5. Organisasi Penulisan	10
BAB II KAJIAN PSIKOLOGI ABNORMAL DAN GANGGUAN IDENTITAS DISOSIATIF	11
2.1. Psikologi	11
2.1.1 Psikologi Abnormal	13
2.1.2 Gangguan Identitas Disosiatif	19
BAB III GANGGUAN IDENTITAS DISOSIATIF PADA TOKOH RYUUHEI KAGURA	25
3.1. Gejala Gangguan Identitas Disosiatif pada Ryuuhei Kagura	27

3.1.1 Memiliki Alter	28
3.1.2 Mengubah Tingkat Fungsi Tubuh dan Memiliki Tulisan Tangan yang Berbeda	33
3.1.3 Kehilangan Memori dan Mengalami Kilas Balik	37
3.2. Penyebab Gangguan Identitas Disosiatif pada Ryuhei Kagura	42
3.3. Akibat Gangguan Identitas Disosiatif pada Ryuhei Kagura	48
BAB IV SIMPULAN	55
DAFTAR PUSTAKA	60
SINOPSIS	x
RIWAYAT HIDUP	xiii



DAFTAR GAMBAR

Gambar 3.1 Kagura Berkomunikasi dengan Ryuu	30
Gambar 3.2 Ryuu Berkomunikasi dengan Kagura	30
Gambar 3.3 Ryuuhei Kagura dalam Dunia <i>Alter</i>	30
Gambar 3.4 Galeri Berisi Lukisan yang Dibuat oleh Ryuu	32
Gambar 3.5 Kepribadian Ryuu yang Kidal	34
Gambar 3.6 Kepribadian Kagura yang Tidak Kidal	34
Gambar 3.7 Kepribadian Kagura Mengenakan Kacamata	35
Gambar 3.8 Kepribadian Ryuu Melepas Kacamata Karena Tidak Minus	35
Gambar 3.9 Tulisan Tangan dari Kagura	36
Gambar 3.10 Tulisan Tangan dari Ryuu	36
Gambar 3.11 Ryuuhei Kagura Muda Menemukan Jasad sang Ayah	44